

平成18年度 病害虫発生予察注意報 第2号

平成18年7月14日
福島県病害虫防除所

病害虫名：イネいもち病（葉いもち）

1 発生地域：県下全域

2 発生量：やや多

3 注意報発令の根拠

- ① 7月1～2半旬の巡回調査の結果、葉いもちの全般発生開始期は中通り、浜通りが7月1半旬、会津が7月2半旬であった。
- ② 葉いもちの発生ほ場率は前年に比べ中通り、会津で高かった。また、各地で多発ほ場が散見され、ずり込み型発生も認められている（+）（表1）。
- ③ BLASTAMによると、6月6半旬～7月2半旬に県内各地で感染に好適な条件が出現している（+）（表2）。
- ④ 天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている（+）。

4 防除上注意すべき事項

1) 発生が認められたほ場における防除対策

- ① 葉いもちの発生が認められたほ場では、早急に散布剤（液剤、粉剤等）による防除を実施する。また、その後の発生状況に応じて、7～10日おきに薬剤散布を行う（表3）。
- ② 予防粒剤（箱施薬剤または水面施用剤）を施用したほ場でも、発生が認められた場合には散布剤（液剤、粉剤）による追加防除を実施する。

2) 今後の防除対策

- ① 発生が確認されていない地域でも、早期発見、早期防除に努める。
- ② BLASTAMを適宜確認して、広範囲で感染好適条件が出現した場合は、その7～10日後にはほ場を観察し、発生が認められた場合には防除を実施する。
- ③ 過剰な窒素の追肥は、いもち病の発生を助長するので避ける。
- ④ 穂いもちを対象に水面施用剤を施用する場合は、適期に湛水状態で散布し、4日間程度止水する（表4）。
- ⑤ 箱施薬剤を施用したほ場でも、7月下旬には葉いもちが発生することがあるので、穂いもち対象の防除が必要となる。
- ⑥ 化学農薬の低減防除体系を実施している場合には、葉いもちの発生に特に注意を払い、発生が認められたら可能な範囲で防除を行う。

3) 薬剤抵抗性対策

- ① 育苗箱施用剤でウィン剤またはデラウス剤を使用した場合は、本田でデラウス剤及びアチーブ剤を使用しない。
- ② 同一系統の薬剤は連用しない。

表1 葉いもちの発生状況（7月上旬）

	発生ほ場率（%）			本年、葉いもちによるずり込みを確認した市町村
	本年（18年）	前年（17年）	穂いもち多発年（15年）	
中通り	50.0	31.0	26.7	鏡石町
会津	31.3	11.1	9.1	喜多方市、柳津町、南会津町
浜通り	19.1	22.1	23.8	いわき市

表2 BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち発生予測システム）による感染好適条件出現状況

	中通り										会津							浜通り								
	茂庭	梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	白河	東白川	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島	相馬	飯館	浪江	川内	広野	上遠野	小名浜
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6/23	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
6/24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△
6/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6/29	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	●	-
6/30	-	?	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-
7/3	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	●	△	-	●	-	-	●	●	●	-	●	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	△	-	●	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
7/9	-	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	△	●	●	-
7/10	●	●	●	●	●	●	△	●	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	○	○	●	○	●	●	●
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-
7/12	-	●	-	-	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	●	●	●	●	●

●:感染好適条件 ○:準感染好適条件 △:感染可能条件

表3-1 葉いもちの散布剤による防除(粉剤)

薬剤名	濃度又は10aあたり使用量	使用時期	使用回数
アチーブ粉剤DL	3～4 kg	1 4 日前まで	3回以内
カスミン粉剤DL	3～4 kg	1 4 〃	5 〃
カスラブサイド粉剤DL	3～4 kg	1 4 〃	5 〃 ^{注1}
キタジンP粉剤30DL	3～4 kg	2 1 〃	3 〃
デラウス粉剤DL	3～4 kg	1 4 〃	2 〃
ノンプラス粉剤DL	3～4 kg	2 1 〃	2 〃
ヒノザン粉剤25DL	3～4 kg	2 1 〃	3 〃
ビーム粉剤DL	3～4 kg	7 〃	4 〃 ^{注2}
フジワン粉剤DL	3～4 kg	1 4 〃	3 〃
ブラシン粉剤DL	3～4 kg	2 1 〃	2 〃
ラブサイド粉剤DL	3～4 kg	7 〃	6 〃 ^{注3}

表3-2 (水和剤、乳剤、フロアブル剤)

薬剤名	濃度又は10a当たり使用量	使用時期	使用回数
アミスターエイト	1,000~1,500倍	14日前まで	3回以内
カスミン液剤	1,000倍	14 "	5 "
カスラブサイド水和剤	1,000倍	14 "	5 " 注1
キタジンP乳剤	800~1,200倍	21 "	3 "
デラウスフロアブル	1,000~1,500倍	14 "	2 "
ノンブラスフロアブル	1,000倍	21 "	2 "
ヒノザン乳剤30	1,000倍	21 "	3 "
ビームゾル	1,000倍	7 "	4 " 注2
フジワン乳剤	1,000倍	14 "	3 "
ブラシンフロアブル	1,000倍	21 "	2 "
ブラシン水和剤	1,000倍	30 "	2 "
ラブサイドフロアブル	1,000~1,500倍	7 "	6 " 注3

注) 注1 5回以内 (但し、穂ばらみ期以降は4回以内)

注2 4回以内 (但し、本田期は3回以内)

注3 6回以内 (穂ばらみ期以降は4回以内)

注4 アンダーラインは登録内容を限定している

表4 穂いもちの水面施用剤による防除

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期 (収穫前日数) 注1	使用回数
フジワン粒剤	3~5kg	出穂30~10日前	3回以内
イモチミン粒剤	3kg	出穂28~7日前 (収穫45日前)	1 "
フジトップ粒剤	3~4kg	出穂25~15日前	2 "
フジワン1キロ粒剤	1~1.5kg	出穂25~15日前 (収穫45日前)	3 "
アチーブ粒剤7	3~4kg	出穂25~10日前 (収穫21日前)	3 "
イモチエース粒剤	3kg	出穂20~10日前 (収穫35日前)	1 "
アチーブ1キロ粒剤24	0.75~1kg	出穂15~10日前 (収穫21日前)	3 "
コラトップ粒剤5	3~4kg	出穂15~10日前	2 "
コラトップ1キロ粒剤12	1~1.5kg	出穂15~10日前	2 "
コラトップジャンボ	パック10~13個 (500~650g)	出穂15~10日前	2 "
キタジンP粒剤	3~5kg	出穂15~10日前	2 "

注) 注1 使用時期は、効果的な施用時期を示しており、登録内容と一致しない。

注2 散布剤及び水面施用剤を使用する場合は、以前に用いた薬剤と合わせて有効成分の総使用回数に注意する。

イソプロチオラン 3回 (フジワン剤、フジトップ粒剤)

カスガマイシン 5回 (カスミン剤、カスラブサイド剤)

トリシクラゾール 3回 (ビーム剤、ノンブラス剤)

ピロキロン 2回 (コラトップ剤、フジトップ粒剤)

フェリムゾン 2回 (ノンブラス剤、ブラシン剤)

フサライド 6回以内 (穂ばらみ期以降は4回以内)

(ラブサイド剤、カスラブサイド剤、ブラシン剤)

メトミノストロビン 1回 (オリブライイト剤、イモチエース粒剤、イモチミン粒剤)

他の病害虫の発生状況や防除対策は、福島県病害虫防除所ホームページ<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>をご覧ください。お問い合わせはTEL024-958-1709、FAX024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.jpをお願いします。

18病防 第32号
平成18年7月14日

関係各位

福島県病害虫防除所長
(公印省略)

平成18年度病害虫発生予察注意報第2号について（送付）

このことについて、別紙のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

（事務担当 発生予察グループ 電話024-958-1709）